

## 会長の時間 ●富田会長

先週の公式訪問では、会員の皆様にお世話になりまして改めて御礼申し上げます。安行英文ガバナーとは、例会前にご随行の藤田会員と一色幹事と共に歓談させて頂きましたが、ガバナーのお考えやお人柄に接する好機であったと思います。歓談の半分は例会のスピーチと重複するものでしたが、それ以外のお話の一部をご披露させて頂きます。

安行ガバナーは、YMCA を介して伝説的なロータリアン、故今井鎮雄 RI 理事の下で、曹洞宗とキリスト教という2つの立場で、ロータリー活動をされて来たという独特のキャリアがあることを最初に伺いました。

歓談の中で、ガバナーは、ロータリーの思想はニューイングランドのピューリタンの思想で始まったとされていますが、利他の思想や徳を積み利するという思想や寛容の精神などは何もロータリーの専売特許ではなく、洋の東西を問わず、普遍的なものと考えていると仰っていました。

そして、ガバナーは、RI によると、2030 年頃に現行のガバナー制度がなくなり、今のガバナー補佐の担当エリアがひとつの地区となりロータリーが細分化するのではないかと、ロータリーは DEI を支持しながら、移民会員の拡大などの多様性がロータリー文化を変えてしまうのではないかと危惧されていました。亦、8月の地区の危機管理・青少年奉仕セミナーでも、地区は奉仕活動に於いて、ハラスメントに神経を尖らせ、事業すべてに保険を掛けるなど対策を講じているとありましたが、ガバナーからも益々ロータリーの事業が困難になるという話がありました。

安行ガバナーが師事された今井 RI 理事は、神戸 YMCA という職業を活かされ、日韓親善、ネパールでの WCS プロジェクトの立ち上げや岩村記念病院の建設、PHD 協会を通じたネパール人米山奨学生の受け入れ、ポリオプラスサミットでの活躍、阪神・淡路大震災でのロータリー義援金活用事業、また、香川県与島の RYLA プログラムの開発指導等様々なロータリー活動に大きく寄与され、また、いのちの電話や PHD 運動、肢体不自由児キャンプに於いて兵庫県や神戸市に貢献された地区が誇るべきロータリアンです。

龍野クラブでは、コロナ禍の昨年に続き、本年は、地区の特別会計支援金を活用して喜多村社会奉仕委員長を中心に10月22日、「しそ自立の家」で障害施設の方々や一般の皆様とサロンコンサートを開催する予定です。昨年の社会奉仕委員会アワード、ひょうご障害福祉事業協会の石田英子理事からスピーチを頂き、チェシャーホームの理念に共鳴された今井鎮雄理事が障害者施設「自立の家」を設立されたと説明がありました。その時、今井理事の設立理念について「平和な社会とは、協力の中から生まれる共に生きる社会に他ならないと思います。いま、私たちはひとつの施設をつくらうとしているのではなく、このような人間の理想社会の建設を夢みながら自立の家を建設したいと思っています。」と紹介されましたが、この言葉に痛く感銘しました。

安行ガバナーにも龍野クラブのこのサロンコンサートについて深いご理解とご支援を頂いておりますが、秋のこの日、実りある事業となるように期待したいと思っています。